

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (たんぼぼ)		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	令和 7 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 7 年 12 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2170500629-006ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和7年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月スタッフローテーションで行事を考え、託児所の子ども達や地域のボランティアさんの力を借り イベントを開催しています。時には総出で外出し、季節の移り変わりを感じて頂き楽しんで頂ける行事に取り組んでいます。日々の生活の中でも個々の楽しみを見つけ引き出しながら、グループホームならではの和気あいあいとした雰囲気の中で生活出来る空間作りを提供しています。日常生活の変化は些細な事でもドクターに報告・相談していき回診時は個々に診察して頂いています。利用者様の状態の変化に迅速に対応できるよう心掛け日々笑顔で過ごして頂ける様努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は木のぬくもりと和の設えを活かした温かみのある造りであり、利用者が中庭を眺めながらゆったりと過ごすことができる環境が整っている。事業所では、法人理念を基に、職員間で毎年独自の理念を更新し、目標に沿った取り組みを進めている。また、敷地内に託児所を有し、職員の働きやすさを支えらるとともに、幼児との交流を通じて、利用者に癒しにつながっている。外出活動については、季節ごとの外出(公園散策やドライブ、いちご狩り等)を実施する等し、地域とのつながりを深めている。さらに、介護記録にタブレット端末を活用する等、業務のICTに取り組んでおり、法人内で情報共有がスムーズであるため、利用者の体調変化にも迅速に対応でき、看護師の対応もあり、安心できる支援体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes We Can」の他に、ひだまり独自の「Team Care～入居者様、ご家族様の言葉はもちろん共に働く職員の声にも耳を傾けます～」という理念をあげて、周知徹底し、ケアに繋げている。	法人理念に加えて独自の理念を掲げており、年度末に実施する職員アンケートを基に、毎年新たな理念を策定し、継続的な改善と意識の共有に努めている。策定された理念は玄関先に掲示されるほか、法人が全職員に配布する小冊子にも記載されており、週に1度の唱和を通じて職員の意識向上が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、町内清掃はエリアマネージャーが参加している。回覧板で地域の情報を共有している。	事業所では、回覧板を利用者にも提示しており、地域の夏祭りや小中学校の様子等の情報が共有され、利用者の関心と喜びにつながっている。コロナ禍以降、外部ボランティアの受け入れは減少しているが、利用者家族等とのつながりにより、オカリナ演奏会等が開催され、利用者に好評を得ている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面方式で年3回運営推進会議を行っている。入居者の様子は施設内を案内し見学して頂くことでご意見を頂くことができた。	近隣の法人内地域密着型事業所と合同で開催し、行政・地域住民に加え、各ユニットから家族代表者の参加を促している。そこでの事業所報告に対して多様な質問・意見が寄せられ、サービス向上に活用している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点に関しては、その都度市に連絡して確認している。認定調査員として来所された時に入居者様の様子を伝え、アドバイスをいただいている。	運営推進会議への定期的な出席を通じて、関係機関との連携が図られている。法人内には、地域包括支援センターが設置されており、運営推進会議に加え、月数回の会議を対面及びオンラインで実施し、情報共有と連携体制が構築されている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や外部での事例などを共有し取り組んでいる。利用者様が穏やかに過ごして頂けるよう情報共有・理解し実践しているが、危険因子を含む場合はこの限りではない。	リスク会議にて意見交換を行い、対応方針の共有を図っている。家族の同意のもと、安全のためのベルトを使用するケースがあるが、職員体制が手薄な時間帯に限定し、記録を残した上で実施している。カメラやセンサーの活用、床への緩衝材設置等により、転倒予防及び転倒後のリスク軽減に努めている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料で学び、職場カンファレンスで話し合い、情報共有し、防止に努めている。定期的に資料を配布したりし自己点検シートも行っている。	年2回、外部講師を招いた研修会を実施している。法人内で作成した自己点検シートを用いて、集計結果を共有し、業務改善に活用している。言葉遣い等に課題が見られる場合でも、職員間で注意喚起や自己反省が行われており、意識向上が図られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、理解に努め、入居者様が当事者様となられた時は、情報共有し、支援を行っている。現状該当入居者はおらず。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、説明し安心して入居していただくようにご家族様の疑問や質問に答えている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は行っていない。面会時には、出来る限りご家族様から意見や要望等を聞き、運営に反映させている。	面会時やプラン更新に伴う電話連絡の際に、利用者家族の意見を聴取している。編み物等の趣味の継続や、面会が困難な場合の電話希望など、個別の要望に応じた対応を行っている。	家族との交流を通じた情報提供及び意見収集に対し、積極的な姿勢が見受けられる。今後は、家族も参加可能な行事の企画等を通じて、更なる意見収集の機会が創出されることを期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談提供をしあえる場所となっている。会議で得た情報や決定事項は各事業所に、申し送られ共有出来ている。	職員の意見を踏まえ、食堂のテレビにインターネット接続環境を整備し、体操や動物動画の視聴が可能となるよう機器の充実を図っている。業務効率の向上のために、タブレットの増設やジョイントマットによる緩衝材の導入等、現場の意見を反映した改善が進められている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	、新人研修、中途入職者研修、クレド等で自己啓発を勧めている。法人以外の研修はコロナの影響で出来ていないが、ZOOM利用等手段を変えての参加を勧めている。	家庭の事情等に配慮し、柔軟な勤務時間を設定している。休暇希望には職員同士が協力・譲り合いながら対応しており、有給休暇も取得しやすい環境である。里帰りによる長期休暇や趣味との両立等、個別の事情に応じた勤務が可能となっている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や法人外での研修に参加している。またOJTを活用しながら日々の業務で教育を行っている。	法人内研修は年間計画に基づき実施されており、オンライン参加も可能である。資格取得者が講師を務めることで、職員間のスキル向上の機会となっている。資格取得に向けた実務者研修等の支援も行っており、人材育成に積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は外部研修などで外部の同業者と交流する機会はある。法人内の他施設との関わりは多くサービス向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の行動・言動に注意し、理解を深めると共に、残存機能維持出来るようケアを行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との普段の会話から、理解を深め、思いを汲み取り、ご本人様の希望や意向に添えるように努めている。	入居時には、法人独自のバックグラウンドアセスメントシートの記入を依頼し、また、必要に応じて、本人から得られた情報を追記することもある。日々の関わりの中で、表情や様子から読み取れる快・不快等を記録するシートも作成され、職員間で情報共有が図られている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が、よりよく暮らすための課題やケアを、ご本人様、ご家族様からの情報に加えて、多業種連携して、情報を共有の上、介護計画を作成している。	ケアプランは3か月ごとに見直しを行っているが、利用者の状態変化に応じて随時変更している。変化の内容に応じて、理学療法士・管理栄養士・歯科衛生士の専門的意見を反映したプランを作成しているが、家族には面会時や電話連絡等を通じて確認している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなど、細かいことも毎日、申し送りや個別記録に記録している。職員間で情報共有し、実践や介護計画作成に活かしている。	日々の記録はタブレットを用いて入力され、電子カルテとして職員間で共有されている。また、日誌は手書きで作成されており、細やかな情報伝達と共有のための工夫がなされている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに柔軟に対応し、多様なサービスが提供できるように取り組んでいる	法人内喫茶店では、店員が出張して珈琲を提供する柔軟なサービスが行われている。また、お盆には仏壇参拝の希望に応じ、職員が付き添い支援を実施している。利用者の個別ニーズに配慮したサービスを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	託児所の子どもの来訪を受け入れたり、隣接の施設と合同で、ボランティアのフラムコを鑑賞したり、徐々に、外部と接する楽しみが増えている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内がかかりつけ医であり、週一回の医師の回診がある。定期的な歯科検診に加え、他医療機関とも連携し、眼科・歯科の往診も行っている。	利用者の多くは同法人をかかりつけ医としているが、専門医受診時には家族に対応してもらっている。事業所では、日頃の健康状態を口頭や書面で家族に伝えることで、外部受診がスムーズに進むよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に「地域連絡室」が設置されており、相談や情報交換を行っている。医療連携が行える環境・関係を築いている。	入院時には、主治医が入院先へ紹介状を交付し、退院時には専門職員が訪問の上、退院時カンファレンスに参加し、早期退院を目指した支援が行われている。退院後は同系列の病院へ転院し、状態が安定するとホームへ戻るケースが多く、継続的かつ円滑な支援体制が構築されている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化や終末期における対応を、ご家族様に説明している。現状を把握し、適切な時期に、事業所で出来る事も含め、ご家族様・医師・看護師・介護職員が話し合い、支援に取り組んでいる。	入居時や重度化した際には、事業所及び医師より看取りに関する説明を行い、希望があれば看取り支援を実施している。看取り時には職員向けの研修を行い、終了後には振り返りの機会を設ける等、支援の質の向上に努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の医師への連絡・報告、救急要請がスムーズに行えるように、マニュアルを作成、見やすい場所に掲示している。応急手当や初期対応の講習を職員員全員が、受け、実践に備えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マップや避難経路を貼りだし、ランタンや常夜灯を備えている。備蓄品も定期的に確認している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、消防署の立ち会いのもと助言を受け、必要に応じて改善を図っている。同系列の施設が集まっていることから、災害時の備蓄品は一箇所に集約して管理されており、定期的に賞味期限の点検も行われ、災害時の安全確保に向けた体制が整備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や認知度を把握し、一人一人の人格を尊重したケアを行っている。節度ある言葉かけや態度で接し、プライバシーに配慮した対応を行っている。	トイレ誘導や入浴時の声かけの際には、利用者の個人の思いを尊重し、誇りを傷つけないよう慎重な対応がなされている。職員同士が互いに配慮し合いながら支援を行っており、尊厳を重視したケアの姿勢が定着している。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望や思いが伝えやすく、自己決定出来るように考慮し、日々の声かけや会話を大切にしている。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事など決められた事はあるが、個々の年齢や性格もあり、どのように過ごしたいのか、一人一人の希望に添えるように努めている。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症予防のため、一緒に準備することは、行っていないが、食器拭きやテーブル拭きを手伝っていただき、音楽を聴きながら、ゆったりと食事を楽しむ環境を整えている。	食事は系列施設内で一括調理されており、事業所では炊飯や汁物の調理を行っている。食後の食器下げや食器拭き等は、可能な範囲で利用者にも協力してもらっている。アレルギー対応や個々の嗜好にも配慮した提供がなされており、生活の質の向上に取り組んでいる。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない方は栄養課と相談を少しでも栄養を取れる方法を検討し、水分摂取量が少ない方にはお茶ゼリーを提供する等その方に応じた対応を行っている。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は遠位見守り、出来ない方は職員が介助を行っている。少なくとも半年に1度は歯科医に診て頂き指示を頂いている。	毎食後に口腔ケアを実施し、夜間には義歯の消毒及び預かり対応を行っている。6ヶ月に1回、歯科医及び歯科衛生士による診察があり、ホーム内で可能な治療は対応している。対応困難な場合には、家族と連携し、外部受診を依頼する等、適切な口腔管理体制が整えられている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様に合わせ 出来る範囲で付き添いトイレ誘導・パット交換等行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現状職員不足などもあり週2日で入浴を行っている。入浴日以外では個別で関わる時間や施設内の行事、誕生日会等を実施している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分でゆっくり休める方は休んで頂き、眠れない時は 傾聴したりお茶を提供する等穏やかになれる環境を作るよう努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の病気の理解に努め、体調変化等あればスタッフ間で情報共有しドクター・ナースに連絡し指示を仰いでいる。	薬剤は調剤薬局より納品され、配薬時には複数名で氏名確認を行い、口腔内までの服薬支援を実施している。誤薬や飲み忘れはほとんどなく、服薬内容はカルテに記録され、職員間で共有・確認が可能な体制が整えられている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様と話をすることで、人となりを把握し、少しでも楽しく過ごせる環境作りに努めている。	入居時には生活歴を記入していただき、利用者のできることや得意なことを職員が把握している。その情報をもとに、お盆拭きや洗濯物たたみ、入浴後のドライヤーかけ等、可能な範囲で日常生活の中での役割を担ってもらっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所への散歩・行事の買い出し等 その日の気温や天候を考慮し外出を行っている。本人の希望があれば家族へ連絡をし外出される。	気候が穏やかな日には、散歩や買い物を兼ねた少人数での外出が実施されている。浄水公園でのバラ見学や芋ヶ瀬池への外出、いちご狩り等、季節を感じられる活動も取り入れられ、生活の楽しみや心身の活性化につながっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では買い物をする場所もなく、買い物を出来るレベルの方は家族と外出され買い物をされている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡をしたいと希望されれば時間を考慮し電話を繋ぐ。お年賀等でハガキや便箋を用意し 送る手伝いを行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除・環境整備で清潔を保持し、季節感を感じて頂ける様 季節に合わせた環境作りに努めている。	床材には木材が使用されており、利用者にとって昭和の良き時代を思わせる雰囲気が出されている。転倒や骨折のリスクに配慮し、一部にはクッション材が敷かれている。季節の貼り絵や夏祭りの写真が壁面に飾られ、利用者がそれぞれの時間を思い思いに過ごせる環境づくりがなされている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様に合わせて配席をし、話しやすい環境を作っている。少し離れた所にソファを置くことで 一人でくつろがれたり席の離れた方との会話の場になっている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の好みや状態に合わせ居室内の環境作りに努めている。コロナ以降居室で面会出来なかったの で これからは家族様にも手伝って頂き環境整備に努めていく。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレとわかる様に掲示をしたり、安全の為に手すりを付ける等行っている。歩行器の方・車椅子の安全を考慮し配席を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (すみれ)		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	令和 7 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 7 年 12 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170500629-006ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和7年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

限られた室内活動だけでなく、託児所の子どもの訪問での触れ合いや隣接している施設と合同でボランティアのフラメンコの鑑賞や夏祭りを行ったり、車で浄化センターへ出掛けるなど、みんなで楽しめる行事を増やしています。毎日の生活の中で必要な下肢筋力の維持・嚥下機能の維持、誤嚥予防などを意識し、毎日、無理のない体操や懐かしい歌と一緒に口ずさんで身体を動かす時間も大切にしています。特に、高齢な方が多いユニットなので、毎日の健康チェックや、体調の変化に敏感に注意し、医師、看護師と情報共有・連携し対応しています。残存機能を大切にする観点からも、出来る事の家事の手伝いを職員と会話しながら、行ったり、季節を感じられるレクリエーションを企画し、ゆったりと落ち着いて、日々過ごせるように、寄り添って支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes We Can」の他に、ひだまり独自の「Team Care～入居者様、ご家族様の言葉はもちろん共に働く職員の声にも耳を傾けます～」という理念をあげて、周知徹底し、ケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、町内清掃はエリアマネージャーが参加している。回覧板で地域の情報を共有している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面方式で年3回運営推進会議を行っている。入居者の様子は施設内を案内し見学して頂くことでご意見を頂くことができた。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点に関しては、その都度市に連絡して確認している。認定調査員として来所された時に入居者様の様子を伝え、アドバイスをいただいている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や外部での事例などを共有し取り組んでいる。利用者様が穏やかに過ごして頂けるよう情報共有・理解し実践しているが、危険因子を含む場合はこの限りではない。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料で学び、職場カンファレンスで話し合い、情報共有し、防止に努めている。定期的に資料を配布したりし自己点検シートも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、理解に努め、入居者様が当事者様となられた時は、情報共有し、支援を行っている。現状該当入居者はおらず。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、説明し安心して入居していただくようにご家族様の疑問や質問に答えている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は行っていない。面会時には、出来る限りご家族様から意見や要望等を聞き、運営に反映させている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談提供をしあえる場所となっている。会議で得た情報や決定事項は各事業所に、申し送られ共有出来ている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	、新人研修、中途入職者研修、クレド等で自己啓発を勧めている。法人以外の研修はコロナの影響で出来ていないが、ZOOM利用等手段を変えての参加を勧めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や法人外での研修に参加している。またOJTを活用しながら日々の業務で教育を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は外部研修などで外部の同業者と交流する機会はある。法人内の他施設との関わりは多くサービス向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の行動・言動に注意し、理解を深めると共に、残存機能維持出来るようケアを行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との普段の会話から、理解を深め、思いを汲み取り、ご本人様の希望や意向に添えるように努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が、よりよく暮らすための課題やケアを、ご本人様、ご家族様からの情報に加えて、多業種連携して、情報を共有の上、介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなど、細かいことも毎日、申し送りや個別記録に記録している。職員間で情報共有し、実践や介護計画作成に活かしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに柔軟に対応し、多様なサービスが提供できるように取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	託児所の子どもの来訪を受け入れたり、隣接の施設と合同で、ボランティアのフレンチを鑑賞したり、徐々に、外部と接する楽しみが増えている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内がかかりつけ医であり、週一回の医師の回診がある。定期的な歯科検診に加え、他医療機関とも連携し、眼科・歯科の往診も行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に「地域連絡室」が設置されており、相談や情報交換を行っている。医療連携が行える環境・関係を築いている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化や終末期における対応を、ご家族様に説明している。現状を把握し、適切な時期に、事業所で出来る事も含め、ご家族様・医師・看護師・介護職員が話し合い、支援に取り組んでいる。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の医師への連絡・報告、救急要請がスムーズに行えるように、マニュアルを作成、見やすい場所に掲示している。応急手当や初期対応の講習を職員員全員が、受け、実践に備えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マップや避難経路を貼りだし、ランタンや常夜灯を備えている。備蓄品も定期的に確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や認知度を把握し、一人一人の人格を尊重したケアを行っている。節度ある言葉かけや態度で接し、プライバシーに配慮した対応を行っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望や思いが伝えやすく、自己決定出来るように考慮し、日々の声かけや会話を大切にしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事など決められた事はあるが、個々の年齢や性格もあり、どのように過ごしたいのか、一人一人の希望に添えるように努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症予防のため、一緒に準備することは、行っていないが、食器拭きやテーブル拭きを手伝っていただき、音楽を聴きながら、ゆったりと食事を楽しむ環境を整えている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない方は栄養課と相談をし少しでも栄養を取れる方法を検討し、水分摂取量が少ない方にはお茶ゼリーを提供する等その方に応じた対応を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は遠位見守り、出来ない方は職員が介助を行っている。少なくとも半年に1度は歯科医に診て頂き指示を頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様に合わせ 出来る範囲で付き添いトイレ誘導・パット交換等行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現状職員不足などもあり週2日で入浴を行っている。入浴日以外では個別で関わる時間や施設内の行事、誕生日会等を実施している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分でゆっくり休める方は休んで頂き、眠れない時は 傾聴したりお茶を提供する等穏やかにになれる環境を作るよう努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の病気の理解に努め、体調変化等あればスタッフ間で情報共有しドクター・ナースに連絡し指示を仰いでいる。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様と話をする事で、人となりを把握し、少しでも楽しく過ごせる環境作りに努めている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩・行事の買い出し等 その日の気温や天候を考慮し外出を行っている。本人の希望があれば家族へ連絡をし外出される。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では買い物をする場所もなく、買い物を出来るレベルの方は家族と外出され買い物をされている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡をしたいと希望されれば時間を考慮し電話を繋ぐ。お年賀等でハガキや便箋を用意し 送る手伝いを行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除・環境整備で清潔を保持し、季節感を感じて頂ける様 季節に合わせた環境作りに努めている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様に合わせて配席をし、話しやすい環境を作っている。少し離れた所にソファを置くことで 一人でくつろがれたり席の離れた方との会話の場になっている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の好みや状態に合わせ居室内の環境作りに努めている。コロナ以降居室で面会出来なかったの で これからは家族様にも手伝って頂き環境整備に努めていく。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレとわかる様に掲示をしたり、安全の為に手すりを付ける等行っている。歩行器の方・車椅子の安全を考慮し配席を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (れんげ)		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	令和 7 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 7 年 12 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170500629-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和7年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しずつコロナが収束してきたこともあり、外出支援や施設全体での外出行事等にも力を入れています。

体調管理の部分では、毎朝血圧測定等のバイタルチェックと夕方には体温測定を行い、体調管理に努めています。少しでも異常があれば医師や看護師と連携し、対応しています。

施設内での行事を行い、楽しみを持って過ごして頂けるようにしています。また、洗濯たたみ、お盆拭き、清拭たたみ等生活リハビリを実施したり、転倒予防、下肢筋力低下予防等の為、毎日体操に力を入れています。歌体操やタオル体操、嚙下体操等毎日バリエーションをつけ飽きないように様々な体操を取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes We Can」の他に、ひだまり独自の「Team Care～入居者様、ご家族様の言葉はもちろん共に働く職員の声にも耳を傾けます～」という理念をあげて、周知徹底し、ケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、町内清掃はエリアマネージャーが参加している。回覧板で地域の情報を共有している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面方式で年3回運営推進会議を行っている。入居者の様子は施設内を案内し見学して頂くことでご意見を頂くことができた。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点に関しては、その都度市に連絡して確認している。認定調査員として来所された時に入居者様の様子を伝え、アドバイスをいただいている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や外部での事例などを共有し取り組んでいる。利用者様が穏やかに過ごして頂けるよう情報共有・理解し実践しているが、危険因子を含む場合はこの限りではない。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料で学び、職場カンファレンスで話し合い、情報共有し、防止に努めている。定期的に資料を配布したりし自己点検シートも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、理解に努め、入居者様が当事者様となられた時は、情報共有し、支援を行っている。現状該当入居者はおらず。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、説明し安心して入居していただくようにご家族様の疑問や質問に答えている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は行っていない。面会時には、出来る限りご家族様から意見や要望等を聞き、運営に反映させている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談提供をしあえる場所となっている。会議で得た情報や決定事項は各事業所に、申し送られ共有出来ている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	、新人研修、中途入職者研修、クレド等で自己啓発を勧めている。法人以外の研修はコロナの影響で出来ていないが、ZOOM利用等手段を変えての参加を勧めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や法人外での研修に参加している。またOJTを活用しながら日々の業務で教育を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は外部研修などで外部の同業者と交流する機会はある。法人内の他施設との関わりは多くサービス向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の行動・言動に注意し、理解を深めると共に、残存機能維持出来るようケアを行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との普段の会話から、理解を深め、思いを汲み取り、ご本人様の希望や意向に添えるように努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が、よりよく暮らすための課題やケアを、ご本人様、ご家族様からの情報に加えて、多業種連携して、情報を共有の上、介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きなど、細かいことも毎日、申し送りや個別記録に記録している。職員間で情報共有し、実践や介護計画作成に活かしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに柔軟に対応し、多様なサービスが提供できるように取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	託児所の子どもの来訪を受け入れたり、隣接の施設と合同で、ボランティアのフレンチを鑑賞したり、徐々に、外部と接する楽しみが増えている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内がかかりつけ医であり、週一回の医師の回診がある。定期的な歯科検診に加え、他医療機関とも連携し、眼科・歯科の往診も行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に「地域連絡室」が設置されており、相談や情報交換を行っている。医療連携が行える環境・関係を築いている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化や終末期における対応を、ご家族様に説明している。現状を把握し、適切な時期に、事業所で出来る事も含め、ご家族様・医師・看護師・介護職員が話し合い、支援に取り組んでいる。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の医師への連絡・報告、救急要請がスムーズに行えるように、マニュアルを作成、見やすい場所に掲示している。応急手当や初期対応の講習を職員員全員が、受け、実践に備えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マップや避難経路を貼りだし、ランタンや常夜灯を備えている。備蓄品も定期的に確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や認知度を把握し、一人一人の人格を尊重したケアを行っている。節度ある言葉かけや態度で接し、プライバシーに配慮した対応を行っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望や思いが伝えやすく、自己決定出来るように考慮し、日々の声かけや会話を大切にしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事など決められた事はあるが、個々の年齢や性格もあり、どのように過ごしたいのか、一人一人の希望に添えるように努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症予防のため、一緒に準備することは、行っていないが、食器拭きやテーブル拭きを手伝っていただき、音楽を聴きながら、ゆったりと食事を楽しむ環境を整えている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない方は栄養課と相談をし少しでも栄養を取れる方法を検討し、水分摂取量が少ない方にはお茶ゼリーを提供する等その方に応じた対応を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は遠位見守り、出来ない方は職員が介助を行っている。少なくとも半年に1度は歯科医に診て頂き指示を頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様に合わせ 出来る範囲で付き添いトイレ誘導・パット交換等行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現状職員不足などもあり週2日で入浴を行っている。入浴日以外では個別で関わる時間や施設内の行事、誕生日会等を実施している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分でゆっくり休める方は休んで頂き、眠れない時は 傾聴したりお茶を提供する等穏やかにできる環境を作るよう努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の病気の理解に努め、体調変化等あればスタッフ間で情報共有しドクター・ナースに連絡し指示を仰いでいる。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様と話をする事で、人となりを把握し、少しでも楽しく過ごせる環境作りに努めている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩・行事の買い出し等 その日の気温や天候を考慮し外出を行っている。本人の希望があれば家族へ連絡をし外出される。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では買い物をする場所もなく、買い物を出来るレベルの方は家族と外出され買い物をされている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡をしたいと希望されれば時間を考慮し電話を繋ぐ。お年賀等でハガキや便箋を用意し 送る手伝いを行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除・環境整備で清潔を保持し、季節感を感じて頂ける様 季節に合わせた環境作りに努めている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様に合わせて配席をし、話しやすい環境を作っている。少し離れた所にソファを置くことで 一人でくつろがれたり席の離れた方との会話の場になっている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の好みや状態に合わせ居室内の環境作りに努めている。コロナ以降居室で面会出来なかったのも これからは家族様にも手伝って頂き環境整備に努めていく。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレとわかる様に掲示をしたり、安全の為に手すりを付ける等行っている。歩行器の方・車椅子の安全を考慮し配席を行っている。		